

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部 平成28年度事業報告

平成28年度は、震災から一つの区切りを迎える5年が経過し、新たに復興創生期間がスタートしたことから、これまでの成果を検証し、推進本部を構成する各機関・団体がこれまで以上に主体性を持って各取組を強化し、ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部（以下、「推進本部」という。）及び各地方推進本部は、本県農林水産業の復興・再生に向けて、「食の安全・安心運動」、「生産再生運動」、「風評払拭・消費拡大運動」、「情報発信運動」の4つの運動を展開しました。

1 共通事項

○ 推進本部会議

平成28年5月23日に「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動推進本部総会」を開催し、28年度の活動計画及び予算等が承認されました。



推進本部平成28年度総会
(平成28年5月23日 福島市)

○ 地方推進本部会議

地方の実情に応じた新生運動の推進を図るため、各地方推進本部総会を開催しました。

【地方推進本部の総会開催状況】

県北：平成28年6月22日開催	県中：平成28年6月17日開催
県南：平成28年7月1日開催	会津：平成28年6月30日開催
南会津：平成28年6月30日開催	相双：平成28年7月8日開催
いわき：平成28年7月3日開催	

○ 意見交換会

平成28年6月から平成29年3月まで、県内7地方において、それぞれに地域のテーマを掲げ、生産者、流通業者、消費者等との意見交換会を開催しました。

【開催回数：7回、参加者数：158名】



県北地方推進本部において開催した
意見交換会(平成28年6月22日)

○ 「食」と「ふるさと」新生運動推進大会

平成 29 年 1 月 28 日、「『食』と『ふるさと』新生運動推進大会」を開催し、食や農林水産業に関係する分野で活躍している生産者・実需者・消費者が、自身の取り組みや思い、本県農林水産業への考えなどについて意見交換を行いました。また、消費者などの参加者と、地産地消に取り組む高校生やトークセッション出演者との自由交流を行いました。

【参加者数：一般消費者等約 200 名】



生産者・実需者・消費者が各々の立場で
意見を交わしたトークセッション



PRブースにおける生産者等と
消費者などの参加者との自由交流

(平成 29 年 1 月 28 日 福島市「ウエディングエルティ」)

○ 食の祭典「おいしい ふくしま いただきます！」フェスティバル

平成 28 年 9 月 3 日～4 日に本県の豊かな農林水産物、加工品等を多数集め、ふくしまの食の魅力を県内外の消費者に広く発信する「食の祭典『おいしい ふくしま いただきます！』フェスティバル」を開催しました。

【来場者数：約 48,000 名】



オープニングセレモニー



多くの来場者で賑わう会場内

(平成 28 年 9 月 3 日～4 日 郡山市「ビッグパレット」)

2 食の安全・安心運動

(1) 安全対策の徹底による食の安全確保

○ 放射性物質対策

安全な農林水産物の供給に向けて、放射性物質の吸収抑制対策やきめ細かな検査の実施を徹底しました。

【吸収抑制対策の実施状況】

水稻におけるカリ肥料施肥面積 58,874ha（作付面積対比 91.7%）

※平成28年度福島県営農再開支援事業実績より

【生産・流通・消費の各段階における放射性物質のきめ細かな検査状況】

区 分	検査数	検査機器配備状況
米の全量全袋検査	約 1,025 万件	202 台(ﾊﾞﾙﾄﾝｼﾞﾊﾞ ｱｰ式)
緊急時環境放射線モニタリング	21,180 件	11 台(Ge 半導体分析器)
あんぽ柿の全量非破壊検査	4,458,568 トレ	33 台(非破壊検査機器)
自家消費野菜などの簡易検査	70,461 件	533 台
学校給食モニタリング	3,954 件	— (委託)

平成 29 年 3 月 31 日現在

【米全量全袋検査及び緊急時環境放射線モニタリングの実施状況】

(H28.4~H29.3)		検査数	基準値超過数	超過数割合
米全量全袋検査(平成28年産)		約 1,025 万件	0 件	0.00%
モニタリング	野菜・果実	3,793 件	0 件	0.00%
	原乳	415 件	0 件	0.00%
	肉類	3,791 件	0 件	0.00%
	鶏卵	143 件	0 件	0.00%
	水産物	9,505 件	4 件(※1)	0.04%
	山菜・きのこ	1,832 件	2 件(※2)	0.13%

(※1)河川・湖沼の魚種のみ (※2)野生山菜のみ

○ GAP、環境と共生する農業の推進

放射性物質対策を含めた農業生産工程管理（GAP：Good Agricultural Practice）や環境と共生する農業の推進を図りました。

【GAPに取り組む産地：226 産地（H27は 208 産地）】

【有機農産物の販売促進のための有機米産地見学会等の開催：1 回】

【エコファーマー認定件数(H29.3現在)：13,853 件(H27年度末は 14,425 件)】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県農業協同組合中央会、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会、福島県漁業協同組合連合会、福島県商工会議所連合会では、独自に放射線の自主検査を実施し、安全・安心な農林水産物の供給を支援しました。



しいたけ原木の非破壊検査

(2) 消費者の食への安心感の醸成

- 県産農林水産物安全・安心実感ツアー

県産農林水産物の安全性に対する理解の促進を図るため、県内の小学生等を対象に県内7地方において農林漁業者や加工業者等の安全確保に向けた取組や放射性物質検査の手順等を見て、聞いて、体験するツアーを実施しました。 【参加者数：県内に居住する親子136組、272名】



ピーマンの検査状況見学
(県中コース)
(平成28年8月2日 三春町)



ももの収穫体験
(県南コース)
(平成28年8月19日 白河市)

また、参加者を対象にツアーレポートのコンクールを行い、審査の結果、入賞した作品の表彰及び展示を行いました。

- ・ 応募総数 135 点
うち、低学年の部・高学年の部
それぞれグランプリ2点
優秀賞 6点



ツアーレポートコンクール
表彰式
(平成29年1月28日 白河市)

【グランプリ受賞作品】

<p>大野水耕生産組合 ★アスパラガスの収穫体験★</p> <p>アスパラガスの育ち方はタケノコとよく似ていて、木の下から次々と生えてくる。 9月まで毎日収穫でき、一はんで20cmものびる。 一度植えると15年くらい収穫できる。 おいしいアスパラにするためには、たいらな(平らな)けいりん(けいりん)や水やりが大切!</p>  <p>70m 40mにしてある ビニールハウス</p> <p>しんさい後はアスパラガスはとんとん育っているのに、出荷できない日が続いたそうです。 今はたくさんの人に食べてもらえるようになったそうです。</p>   <p>甘くてやわらかいアスパラガス</p>	<p>株式会社 夕月 夕月工場 ★竹ちくわ作り体験★</p> <p>かまぼこは主にミナミタラシという自身の魚からできている。 とった魚は船の上ですり身にする。 かまぼこという名前は「かまのほこ」からきている。</p> <p>津なみのえいさうでほそんしてあたたかい料理は使えなくなりました。たそです。 いわさの海でとった魚は外国の物にかえたりして、今までとかわらないおいしいかまぼこが作られています。 すり身を竹につけるのがむずかしいけれど、やさしくて竹ちくわはすごくおいしいそうです。</p>	<p>名前: 西野 早咲 コース名: Aいわきコース 日にち: 平成28年 7月 26日</p>
<p>JA福島 さくら第一営農経済センター ★モニタリング検査体験★</p> <p>かんさするものを水洗い ↓ カッターできざむ ↓ さがいに入れる ↓ 結果をパソコンに入力する ↓ いらした人がかくし</p> <p>けんさにはきびくるをはあて行く。 カッターできざむだけおまかせ、みつとも上げる。 けんさごとにきびくるやカッターはする。</p> <p>私たちが食べている野菜などはすべて検査をしていると聞いて安心しました。</p> 	<p>Iwaki GO</p> <p>いわき市</p> <p>どのせつでも、他の県よりもきびしいけんさをしていて、安全な野菜がとれます。福島県の野菜は安全でおいしいので、ここをたのしみの人に食べてもらいたいです。</p>	<p>JAとまとランドいわきファーム ★とまと摘み取り体験★</p> <p>9しるいのとまとのつみとりができます。 とまとランドの中にさんりゅう(さんりゅう)など安全なかんをすする所があり、けんさをしてから売っています。 ハウスに入るのととまとのにおいがすこくして色んな形や色のとまとがありました。 とれたてのとまとはとてもジューシーでした。</p>   <p>森のキッチン ★ランチバイキング★</p> <p>とまとを使った料理が食べられる、サラダコーナーに色んなしるいのとまとがある。 とまとは生でも火を通しておいしいです。 私は「フラガール」というとまとが一番好きです。</p>   <p>森のマルシェ ★お買い物★</p> <p>とまとやお花、おみやげなどが買える。 便利スペースもある。</p>

低学年の部 西野 早咲さん(小学3年生)

<p>1. 株式会社 大栄木村</p> <p>すごい機械がたくさんあった!</p>  <p>2016.08.19</p>	<p>食べて、飲んで、楽しく学ぼう 県南の農材まつり</p> <p>福島県産物は安心ということを知りました。安全確保のために、たくさんの方の検査をしていました。アランド村の、ておおという本物はいい香りがしました。ておおのうらわち、マグネットもいただきました。うち物は、あおぐとどてもいいお物ができました。</p>	<p>名前: 影山 梨愛 コース名: F 県南 コース 日にち: 平成28年 5月 19日</p> <p>えがお満点!ふくしま</p>
<p>2. 旬菜レストラン山ぼうし</p> <p>昼食のバイキングは国産を使用した品、どれも絶品でした。売店のとまとは特別な育て方をしているのでみずみずしくておいしいです。ここ福島のとまとのほとんどが、大規模な温室で栽培して、たくさんのお客様を受けて売られているそうです。中央には、初搾り、のソフトクリームが売っています。そのソフトクリームは濃厚でおいしいです。福島の自産の食料はいいなと思いました。</p>	<p>3. 北條農園 (桃狩り)</p> <p>おいしく濃厚な初搾り!</p>  <p>2016.08.19</p>	<p>北條農園の方に桃のおいしい見分け方を教えてもらいました。 ①まんまる ②赤い ③枝の先の桃のふこがそろえば満点だそうです。最後に桃の試食をしました。固い桃は緑色(うすうす)でした。やわらかい桃は少し、むきたても茶色でした。とても甘か。たです。桃より、葉の方がたくさんあるんじゃないかな。と思いました。</p> <p>桃のおいしい見分け方!</p>  <p>2016.08.19</p> <p>変いそうな桃売見!</p>  <p>2016.08.19</p>
<p>4. そば打ち体験</p> <p>そば打ち体験</p>  <p>2016.08.19</p>	<p>初めはそば打ち体験をしました。まずこなを入れて水を少しずつ加えたら、ぬん土のようになりました。のびすのは少しむずかしかったけど、打つ(うつ)のはとても上手にできました。あまりそばは、よく知らない事と、直せつ光にあてないことを知りました。家に帰ってゆでたら、半分入れただけとても物くなりました。びっくりしました。</p>	<p>なせ福島がおいしいのか分かりました。大変な作業までして、みんなに安全安心な笑顔をお届けするためにがんばっていました。</p> <p>木桃とトマト</p> 

高学年の部 影山 梨愛さん(小学4年生)

○ 放射性物質の検査結果の提供

放射性物質の検査結果のわかりやすい情報提供や消費者の放射線に対する正しい理解の促進に取り組みました。



ホームページ「ふくしま新発売。」
(<http://www.new-fukushima.jp/>)

【ホームページ「ふくしま新発売。」の平成 28 年度アクセス数：約 169 万人
(ホームページ開設時からの累計：約 649 万人)】

○ 消費者対象イベントにおけるPR活動

県内で開催された各種イベントにおいて、新生運動のブースを設け、運動の取組等に関するパネル展示、農林水産業に関するクイズ、野菜栽培体験、新生運動 LINE 公式アカウント及びメールマガジンのPR等を行いました。



「おいしい ふくしま いただきます！」
フェスティバル」への出展

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県消費者団体連絡協議会では、「食の安全・安心アカデミー シンポジウム」において、独自に行った「放射能による風評等に関するアンケート調査」の中から、地産地消がすすんでいることや放射性物質検査について発表しました。
- 公益社団法人福島県栄養士会では、小学生を対象に、県内の大型スーパーマーケットにて、店頭に並ぶ季節の野菜や果物を教材に、お買い物ゲームなどを通じた食育推進事業「5ADAY」を実施しました。【参加者 1,759 名】

3 生産再生運動

(1) 力強い農林水産業の生産体制の確立

○ 農業

震災及び原子力災害からの復興に向けて、生産量の回復、生産構造の強化等に取り組むとともに、意欲ある担い手の育成や女性農業者の活動支援に取り組みました。



平成28年7月に設立された「ふくしま農業女子ネットワーク」

【県内の認定農業者数：7,730 経営体（H27：7,196 経営体）】

【県北地方におけるあんぽ柿の出荷：

加工再生モデル地区 108 地区（H27：95 地区）、出荷量 1,154t（H27：891t）】



広野町でリンドウの生産が再開



あんぽ柿産地の再生が加速（県北地方）

○ 林業

森林整備と放射性物質対策を一体的に進めるとともに、森林整備ボランティア活動や企業の森林づくり活動の支援、地方植樹祭等の実施により、県民が森林を守り育てる意識の醸成に取り組みました。



第14回うつくしま育樹祭（平成28年11月12日 白河市）

【ふくしま森林再生事業の実施：37 市町村】

【企業の森林づくり協定の締結：10 社、12 か所】

○ 漁業

沿岸漁業の再開に向けた取組により、ヒラメの水揚げや入札による取引が再開されるなど、試験操業は着実に拡大しています。また、漁業技術を伝承するための研修や、漁業の魅力を伝えるための漁業体験等の支援により、漁業担い手の確保・育成に取り組みました。



6年ぶりにヒラメの水揚げが再開



水揚げ物の入札が再開
(相双地区のコウナゴ)

【試験操業対象種：全ての魚介類（出荷制限魚種を除く）】

※平成 29 年 3 月末現在（H28：73 魚種）

【操業再開した経営体数：476 経営体】

※平成 28 年 12 月末現在（H27：304 経営体）

○ 農林水産業再生セミナー

農林漁業者が夢のもてる農林水産業の実現に向けて、県内各地で農林水産業の生産性の向上と農林漁業者の所得拡大のためのセミナーを開催しました。【開催回数：10回
参加者数：農林漁業者等642名】



農林水産業再生セミナー
(平成 28 年 9 月 1 日 福島市)

○ がんばる農林漁業者事例集の発行

農林漁業者の復興に向けた意欲の向上やその取組に対する消費者等の理解促進を図るため、各地域で先進的に取り組んでいる農林漁業者等を取材し、ニュースレターや事例集として発行しました。【事例掲載数：31 事例】



伊達市でももなどの果樹栽培に
取り組む齋藤栄慶さん・智美さん



檜葉町で6年ぶりに米づくりを再開した
上繁岡水田復興会の皆さん

【構成団体等における特徴的な取組】

- 公益財団法人福島県森林・林業・緑化協会では、「森からのスタート」をテーマに、県内のきのこ生産者等を対象としたセミナーを開催し、栽培技術の向上を支援しました。【参加者数：約 100 名】
- 福島県農業協同組合中央会、福島県中小企業団体中央会、福島県食品産業協議会は共催で「アグリ×ビジネスマッチング交流会」を開催し、県内の様々な地域の力（人材・資源・伝統）を活用した魅力ある商品づくり、異業種相互交流による新たなビジネスモデルづくりを促進するため、実需者等とのマッチングの場を創出し、地域産業6次化の推進を図りました。



(2) ふくしまブランドの回復・強化

○ ふくしまの恵みイレブン

「ふくしまの恵みイレブン」品目等の作付拡大や県オリジナル品種の活用により収益性の高い産地づくりに取り組みました。

【食味ランキング（（一財）日本穀物検定協会発表）における

県産米の特 A 獲得数：3 個（H27：3 個）】

【県オリジナル品種「天のつぶ」作付面積：5,073ha（H27は 4,846ha）】

【園芸品目施設化支援件数*：ハウス 161 棟、かん水同時施肥システム等 46 か所】

*「産地パワーアップ事業」、「元気な産地づくり支援事業」及び「チャレンジ

ふくしま水田フル活用緊急対策事業のうち水田活用型園芸産地緊急育成事業」

【きのこ原木等の購入支援：原木約 18.5 万本、おが粉約 26.9 千 m³】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県食品産業協議会では、会員事業者の国内及び海外展示会への出展に対し、補助を行い、販路開拓を図りました。【国内出展:14 社、海外出展:2 社】
- 福島復興局（復興庁）では、福島フードファンクラブを設立し、県産品の通販サイト「チームふくしまプライド。」の運営や、県内の農業関係者を対象とした「福島ファーマーズ・キャンプ」におけるブランド化・商品化の支援を通じて、販路開拓及び情報発信を行いました。

4 風評払拭・消費拡大運動

(1) 消費者の県産農林水産物に対する理解促進

○ プロモーションの展開

消費者や流通関係事業者等の信頼回復に向けた効果的かつ戦略的なプロモーションを展開しました。

【ふくしまの恵み販売力強化事業を活用したプロモーションの展開】

平成28年度

平成28年度 チャレンジふくしま農林水産物販売力強化事業
～元気なふくしまの農林水産業を取り戻すために～

「ふくしまプライド。」によるブランドの再興



【農業団体等と県が連携したトップセールスの実施：25回】



農産物や産地の魅力を表した「ふくしまプライド。」の下、テレビCMやトップセールス等を実施。

- 一般消費者を対象とした講演会等
一般消費者を対象とした食品と放射能をテーマとした講演会等を開催しました。

【一般消費者対象の食品と放射能をテーマとした

説明会等（消費生活課主催）：76回、3,437名参加】

【食の安全・安心アカデミーシンポジウム（消費生活課主催）：2回、659名参加】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県農業青年クラブ連絡協議会では、第26回ふくしま農見本市を開催し、FCT24時間テレビチャリティー募金活動との協賛により餅つき体験、農産物や加工品の販売、農業青年クラブの活動の紹介を行い、県産農産物の安全性と魅力を一般消費者にPRしました。

(2) 地産地消による県産農林水産物の消費拡大と食育の推進

- 県産農林水産物の消費拡大キャンペーン等の展開
県産農林水産物の販売促進キャンペーン等のPR活動を展開しました。

【がんばろう ふくしま！ 応援店登録数：2,232店】

【ふくしまの恵み PR 支援事業：274件】

【チャレンジふくしま若い力による風評対策提案事業：3件】

【おいしいふくしま いただきます！キャンペーン：47件】



各地域の特性を生かした
「おいしいふくしま いただきます！
キャンペーン」



農林水産物を主体に様々な“ふくしまの魅力”を
PRしていく「チャレンジふくしま若い力による風評
対策提案事業」

○ 地域産業6次化等の推進

地域産業6次化、グリーンツーリズムの推進、観光キャンペーン等県産農林水産物のPR活動の一体的な実施に取り組みました。

【「6次化新商品カタログ」掲載商品数：370商品（H27は369商品）】



「ふくしまおいしい大賞」のオンラインショップを刷新し、6次化商品の知名度向上や販売促進に取り組みました。

○ 学校給食等における県産食材の活用推進

県内の小中学校を対象に、保護者等の原発事故の発生に伴う学校給食に対する不安の解消、学校給食における県産農林水産物の活用推進に取り組みました。

また、県内の給食事業者、給食施設を有する介護施設や病院、企業等を訪問し、県産食材の利用を呼びかける県産食材利用推進キャラバンを実施しました。

【県産食材利用推進キャラバン実施件数：58件】

【学校給食地産地消事業実施件数：37市町村・244校】

【「いただきます。ふくしまさん」事業実施件数：20件（11市町村・88校）】

【学校給食における地場産物利用状況：32.3%（H22は36.1%）】

【構成団体等における特徴的な取組】

○ 福島県酪農業協同組合では、首都圏の大学を対象に「大学生協東京事業連合カフェオレキャラバン」を実施し、県産牛乳・乳飲料を配布し安全安心・美味しい県産牛乳のPR活動を行いました。

○ 福島県漁業協同組合連合会では、本県漁船が小名浜港で水揚げした鰹を原料とした缶詰「福島海の宝かつおフレーク油漬」を製造・販売し、本県水産物のPRを行いました。



○ 公益財団法人福島県森林・林業・緑化協会では、県産きのこを使用した料理コンクールを開催し、きのこに対する理解促進と消費拡大を図りました。

【応募作品 110点】

なお、最優秀賞の受賞者は、福島県代表として第30回きのこ料理コンクール全国大会に出場し、日本特用林産振興会長賞等を受賞しました。



○ 東北農政局福島支局では、国の合同庁舎の食堂において、食堂運営事業者協力の元、福島県産米天のつぶを使用したメニューの提供を行いました。

○ 県南地方推進本部では、白河産の6次化商品から「しらかわ3大地産グルメ」（こんにゃくスイーツA・RA・RE、トマト豚まん、真っ赤なルバーブジャム）を選定し、通販サイト「ふくしま市場」でPR販売を行いました。

5 情報発信運動

(1) 県内外への情報発信

○ ICT等を活用した情報発信

構成団体の取組や、各地域で頑張っている農林漁業者の声や取組等を、新生運動のホームページやLINE公式アカウント、メールマガジン等のICTを有効に活用した情報発信に取り組みました。

また、日本最大の料理レシピサイト「クックパッド」の福島県公式キッチンを開設し、県内の旬の農林水産物や地域の特産品を使用したレシピを生産者等から収集の上掲載することで、県産食材の魅力発信を行いました。



クックパッド
福島県公式キッチン
「はら食っち～な ふくしま」

【新生運動ホームページアクセス数：56,243件】

【LINE公式アカウント友だち登録件数：2,805件】

【メールマガジン登録件数：948件】

【クックパッド福島県公式キッチンアクセス数：約600,000件】

○ 避難者向け広報誌の発行

県内外に避難している農林漁業者が不安なく帰還して営農を再開できるよう、「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動 HOT☆NEWS」を発行し、福島県の現状や支援制度、がんばる農林漁業等の情報等を発信しました。

【発行数：3回 発行部数：約52,000部/回】



「HOT☆NEWS」第7号では
漁業再開に向けた試験操業を紹介
(平成28年7月発行)

○ 避難指示解除地域における営農再開パネル展

避難区域等での営農再開を後押しするために、避難指示準備解除区域等の市町村で実際に営農再開をした農林漁業者の取組等のパネル展示を行いました。【実施数：3箇所（川内村、葛尾村、南相馬市）】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 公益社団法人福島県畜産振興協会における「畜産福島」、福島県土地改良事業団体連合会における「土地改良だより」、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会における「林業福島」など、構成団体、地方推進本部等が発行する広報誌等を通じて、本県農林水産業の復興に関する情報を発信しました。
- 福島県農業協同組合中央会では、大相撲東京場所において、優勝力士への県知事賞副賞として県産農畜産物（天のつぶ、牛肉、野菜等）の贈呈を行いました。

(2) 世界へ向けた情報発信

○ 海外のイベント等での PR 活動

海外等で開催される国際的なイベントや多言語化に対応したホームページなどにおいて、福島県の復興の状況や県産農林水産物の安全確保に向けた取組を紹介しました。



香港インターナショナルワイン&スピリッツにおいて安全安心セミナーを開催し、県産農産物の安全性や魅力を発信（平成 28 年 11 月 10～12 日 香港）

○ 外国の方々に対する情報提供

輸入規制等を講じている国・地域の関係者を本県に招致し、生産現場などを視察いただき、安全・安心の取組みに対する理解を深めました。

県内を研修・視察等で訪れた外国の方々に、本県農林水産業の現状に関する情報等を提供しました。

【農林水産業関係視察受入数：7 件 153 名】



ミラノ大学視察（平成 28 年 7 月 19 日）

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県漁業協同組合連合会では、カナダのマクマスター大学の学生が来県した際に、学生と青年漁業者との意見交換会を行い、福島県の漁業の現状の説明し、PR活動を行いました。